

## 研究内容一覧

### 共通テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

委員	個人テーマ	研究内容
日比野彰朗 (岐阜北)	英語の授業における探究型学習の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語の授業と総合の学習の時間を利用して、大きな探求学習を導入する。コミュニケーション英語ⅡのLesson2で、アフリカでの運動会の導入について扱っているため、その発展として「発展途上国の開発援助の方策」について探求させる。探求の成果としてプレゼンテーションを名古屋大学の留学生の前で実施する予定。</li> <li>●1回の授業内で完結する探求については、かなり授業準備が必要であるが、授業時間を確保して、適切な探求テーマを考え、導入したい。</li> </ul>
安藤万莉英 (大垣北)	読むことを通して、思考力を高める授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SQ3Rや批判的思考の活動を「読むこと」を中心とした授業に取り入れ、生徒がより主体的に考えながらテキストを読むことができるようにする。</li> <li>●自分の意見と他人の意見を比較したり、自分の読解の仕方を振り返ったりすることで、生徒の思考力を引き出す工夫をする。</li> <li>●より効果的なプロジェクターの活用を研究する。</li> </ul>
西川かおり (加納)	主体的に学ぶ姿勢を育む授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT 機器の効果的な使用法の研究・・・「導入時」「本文内容のretellingの段階」「生徒の課題の共有時」でいかにICTを効果的に活用し、生徒の主体的な学びを促すか。</li> <li>●表現活動の研究・・・「GTEC・英検の教材を用いて生徒の表現活動に対する苦手意識を弱め、生徒自身が目標とするレベルを意識した状態で学習を進められる状況作り」→「簡易ディベート」→「fact」と「opinion」の違いの理解とそれぞれを効果的に用いた表現活動」とステップを踏んで指導する。</li> <li>●課題のあり方の研究・・・放課後に自分で調べるなど、プラスアルファの活動をしなければ次時の活動ができないような課題を課し、KP法（紙芝居プレゼンテーション法）を用いた発表を行う。</li> </ul>
林ちひろ (関)	自己表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オーセンティックな教材の活用・・・動画や新聞記事などを使って、授業を展開する。教科書以外のさまざまな教材に触れることで、実際に話されるスピードや難易度に慣れさせるとともに、深い学びへとつなげていきたい。またそのような授業展開を実践するために教材の質・量ともに適切なものを追究していくことも課題としたい。</li> <li>●授業の初めには身近な話題を話すスモールトークを設定し、やりとりのスキルを磨く。発表に関しては、授業内容に関連した問いに対して自分の意見をまとめさせ、それを相手に伝える機会を設け、力を伸ばしていきたい。</li> <li>●本文に関連した内容に関して、自分の意見を述べるができるようなテーマを設定する。エッセイライティングの書き方、使える表現等も適宜指導し、豊かな表現力を育成したい。</li> </ul>

<p>林正幹 (恵那)</p>	<p>大学入試（特に国公立大学個別試験リーディング）を突破する学力を定着させる指導と4技能を伸ばす指導との融合</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウォームアップ活動、プレリーディング活動とポストリーディング活動において、アウトプットや交流の時間を確保する。また、技能統合型入試問題の傾向を分析し、特にウォームアップ活動とポストリーディング活動のバリエーションを増やす。</li> <li>●入試問題を検討し、「時事的なテーマ」「自分について」「想像力・創造力」「格言・諺」から活動内容を検討したい。</li> <li>●生徒自身に ICT 機器を使わせることで、スピーキング力を向上させたい。そのための方法や評価基準を検討したい。</li> <li>●自身の授業を分析し、それぞれの技能習得に使われている時間の割合を出したい。</li> </ul>
<p>高田敏博 (中津川工業)</p>	<p>『書くこと』を主体的に取り組むことができる授業の構築と効果的な ICT の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「コミュニケーション英語Ⅰ」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期は本文内容に関する英問英答を Rephrase して相手に伝える Retelling の活動を行い、後期は英問英答なしで Rephrase する活動から Keyword を見て相手に伝える活動を行う。</li> <li>・ Input → Intake → Output を意識した授業の展開。</li> <li>・ ICT を活用した多読・速読活動の充実。</li> <li>・ Sight Translation を行い、音と意味の一致を促す活動を行う。</li> </ul> </li> <li>●「英語表現Ⅰ」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した文法を用いて文章を書かなくてはならない場面を設定し、正しく書いて伝える力を養う。</li> <li>・新たに購入するデジタルコンテンツを用いて、Model Conversation の場面を意識した活動を行う。</li> <li>・自分に関する事柄を書き、全体で共有したうえで表現のしかたをさらに学ぶ。</li> </ul> </li> </ul>